



三観地区総体始まる 陸上から

6月12日(土)、三観地区総合体育大会が、陸上競技から始まりました。新型コロナウイルス感染症対策により無観客での実施になりました。

詫間中学校は、男子、女子ともに総合で5位になりました。個人の3位までの結果は右の通りです。表彰には届かなかったものの、これまでの練習の成果を發揮して自分が納得できる記録や成績を残せた人もいたようです。顧問の先生をはじめ、他の部員の人たちも、その人の努力の積み重ねに気付いてくれています。

明日は期末テスト発表です。運動部の3年生は、あと1週間ほどの練習で、最後の総体を迎えることとなります。また、文化

部も、それぞれ時期は違いますが、夏休み中にコンクールや発表会、競技会などがあります。最後の総体、コンクール、発表会などで100%の力が發揮できるよう、準備をしてください。準備が全てです。試合やコンクールの当日だけ頑張っても、よい結果が出るはずはありません。その日までに、どれだけ練習したのか、努力したのか、苦しいことをがまんしたのか、その準備に費やした時間が結果を決めるのです。

◆ 三観地区総合体育大会 陸上競技

☆ 男子総合5位		☆ 女子総合5位	
共通男子4×100m	1位	小原 權、田尾 恭脩	
		中西 陽希、大西 陽哉	
共通女子 200m	1位	武内七千愛	
共通女子 走高跳	1位	曾根 優花	
3年男子 100m	1位	大西 陽哉	
3年女子 100m	1位	武内七千愛	
共通女子4×100m	2位	河内さくら、曾根 優花	
		芳地 美風、武内七千愛	
共通男子 200m	2位	大西 陽哉	
共通男子3000m	3位	藤岡 昊城	
共通男子 走幅跳	3位	岩田 優人	
2年男子 100m	3位	岩田 優人	

「努力の壺」の話

<まんのう町光隆寺住職講話>

人は何かを始めようとするとき、神様から「努力の壺」をひとつもらうのだという。この壺には、努力すると、それに見合っただけの水が入る。小さな努力なら少しの水。大きな努力なら多くの水が入る。

そして、努力を重ねて、この壺がいっぱいになり、ついに水があふれ出すとき、願いがかなうのである。この話には、二つの大切なことがある。

一つは、壺の大きさは人によって、また目標によって違いがあるということだ。小さな壺の人はわずかの努力で水があふれ出すだろうし、大きな壺の人は、長い時間努力を続けてもなかなかあふれ出さない。

目標が違えば、壺の大きさも違うのは簡単に分かるだろう。でも、目標が同じでも、人によって壺の大きさは違うのである。これはその人の才能とか能力を言っているのではない。人間は一人一人違うのだから、当然今までやってきたことも違う。だから壺の大きさも違うのである。

1学期の期末テストが発表になった。ほとんどの人は学習を始めているはずだ。でも、友だちとの会話で、「私は昨日、全然やっていない」「僕も、まだ〇〇はすんでいない」などと言っていないだろうか。そして、それによって、「友だちもやっていないんだから、まだ大丈夫だ」などと安心していないだろうか。でもこれは本当に見せかけなのだ。人によって壺の大きさは違うのだから、同じことをしているからといって結果が同じになることは決してない。不公平だと思うかも知れない。でも、これが人生なのである。自分の努力の結果は自分で背負うしかない。厳しいけれどこれが現実であり、人生なのだ。

もう一つ大事なこと。それは、どんなに大きな壺でも、水を入れ続ける(努力を続ける)かぎり必ずいっぱいになるということである。最初は壺がいっぱいになる日は、気が遠くなるほど先に感じるかも知れない。でも、水を入れ続けるうちに必ず手応えを感じるはずだ。努力を続ける限り、壺があふれ出す日は思ったより早くやってくる。小さな壺をもらった人が努力を怠って、いつまでもいっぱいにならず、大きな壺をもらった人が地道に努力を続けて、先にあふれ出すことも多い。これもまた人生である。